

平成25年度個別評価が「Ⅱ」であった1項目についての対応状況

資料6-2

中期計画	年度計画	実施状況等	評価結果	評価が大学と異なる理由及び特筆すべき事項	対応	H26大学自己評価																				
14 ⑫ 戦略的な入試広報による優秀な学生の確保 優秀な学生確保に向け、本学を第一志望先とする受験生を増やすための戦略的な入試広報計画を策定・実施する。スカラシップ入試*1の効果検証と改善・継続を行うとともに、他大学との共同プロモーションや重点対象校への新たな取組みとして、在学生が出身高校で本学の紹介をする説明会を開催するなどして、一般選抜の実質倍率*2 2.8倍以上を確保する。	14-1 ⑫ 戦略的な入試広報による優秀な学生の確保 入試結果等を踏まえ、入試広報戦略の検証を行う。	○平成23年度に策定した入試広報戦略について、概ね3年を経過する時点で中間評価を行うこととしているため、各入試広報イベント参加者に対する調査、入学者アンケート調査及び入試結果の分析を行った。これらの分析結果を踏まえ、以下の項目について効果検証を行い、入試広報戦略の中間評価を平成26年4月に実施することを決定した。  <中間評価項目> (1)戦略の方針 ①「満足度向上企画(お迎え企画)」の効果的・効率的な事業の継続 ②「魅力発信企画(お出かけ企画)」の一部戦略の見直し ③入学辞退率の高い地域(福岡都市圏)に重点を置いた活動の推進  (2)活動内容 ①入試広報の媒体の作成 ②活動企画の内容 ③対象者(高校)・対象地域の厳選及び地域ごとの戦略の検討  (3)推進体制	Ⅱ	(特筆すべき事項) 入試広報活動には、相当な努力をしている点は評価できるが、2年連続で目標を下回った原因の検証は十分すべきである。 一般選抜入試志願者が年々減少することは問題であり、より効果的な広報戦略が実施されることを期待する。	平成26年度入試において、一般選抜における志願者数は前年の5,037人から4,645人に減少(▲392人)した。主な原因として、国際環境工学部における志願者が前年の1,805人から1,245人に大きく減少(▲560人)したことが挙げられる。国際環境工学部の志願者数は、平成18年度入試以降増加を続け、平成22年度入試において2,057人に達した後、翌年は大きく減少したものの、その後2年連続で増加し、平成25年度は1,805人に達した。その反動で平成26年度は志願者が減少したものと考えられる。  【国際環境工学部の志願倍率、実質倍率】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H17</th> <th>H22</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>志願者</td> <td>966</td> <td>2,057</td> <td>1,805</td> <td>1,245</td> </tr> <tr> <td>志願倍率</td> <td>5.9</td> <td>9.5</td> <td>8.4</td> <td>5.8</td> </tr> <tr> <td>実質倍率</td> <td>2.4</td> <td>5.1</td> <td>4.2</td> <td>2.9</td> </tr> </tbody> </table> 平成26年度は、国際環境工学部において、秋季オープンキャンパスでの受験者の多い県内高校4校への送迎バスの手配、学部主催のガイダンスを宮崎で行うなど、新たな取組を行った。また、平成26年4月の入試広報戦略の中間評価の結果、九州各県を重点地域として積極的な広報活動を行うため、新たな地域でのガイダンス実施(佐賀、熊本)、大学紹介動画の作成・活用などを行い、志願者の増加に向けた取組を行った。  近年の受験生の傾向として、入試センター試験の負担から、私立大学の志願者数が増加する一方で、国公立大学全体で平成23年度から5年連続で志願者数が減少し(一般選抜の志願倍率は平成23年度5.0倍→平成27年度4.7倍)、本学を含めた九州の国公立大学の志願者数も減少している。特に、平成27年度は、入試センター試験において新課程に移行した数学・理科の影響により、国公立大学を敬遠する傾向が強まったものと考えられている。  このような中、平成27年度は、大学広報担当課長や、民間企業経験者である広報アドバイザーを新たに配置し、広報体制の強化を図るとともに、志願者の微減傾向が続いている外国語学部を中心とした改組を検討することとしている。今後とも、平成32年度の入試改革の動向も踏まえながら、志願者・受験生の確保に努めていきたい。		H17	H22	H25	H26	志願者	966	2,057	1,805	1,245	志願倍率	5.9	9.5	8.4	5.8	実質倍率	2.4	5.1	4.2	2.9	Ⅱ
	H17	H22	H25	H26																						
志願者	966	2,057	1,805	1,245																						
志願倍率	5.9	9.5	8.4	5.8																						
実質倍率	2.4	5.1	4.2	2.9																						
*1 入試成績が優秀な受験生に対して授業料・入学金などの学費を免除する入試制度 *2 実質倍率=実際の受験者数÷合格者数	14-2 ⑫ 戦略的な入試広報による優秀な学生の確保 スカラシップ入試*1について、志願・入学状況・入学後の成績などを踏まえて総括し、継続の判断を行う。  * 入試成績が優秀な受験生に対して授業料・入学金などの学費を免除する入試制度	○スカラシップ入試について成績調査を実施し、その効果・検証を第188回教育研究審議会で報告した。 また、同制度の適用を受けた学生の入学後の成績調査及び進路指導者懇談会やオープンキャンパスで実施したアンケートの結果を基に検討を行った。 なお、平成26年度入学生については、経過措置として、規模を縮小して実施し(対象者:上位10%→5%)、平成27年度入学生以降については、学内検討プロジェクトを設置し、全学を挙げて検討することを決定した。																								
	14-3 ⑫ 戦略的な入試広報による優秀な学生の確保 入試広報戦略に基づき、平成25年度の入試広報計画を定め、広報活動を行った。  [実質倍率*2.8倍以上]  *実質倍率=実際の受験者数÷合格者数	○入試広報戦略に基づき、平成25年度の入試広報計画を定め、広報活動を行った。  <在学生を活用した広報活動> 在学生を「北九大魅力発信プロジェクト」メンバーとして活用し、大学訪問でのキャンパスツアー(24回)やパネルディスカッション(11回)の実施及び出身高校訪問(3校)を行い、より高校生目線に近い観点からの本学の魅力発信を行った。 また、第2期からひびきのキャンパスにおいても当プロジェクトを開始した。																								

中期計画	年度計画	実施状況等	評価結果	評価が大学と異なる理由及び特筆すべき事項	対応	H26大学自己評価																																																																											
		<p>&lt;魅力発信企画&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆出張講義(46校)</li> <li>◆教職員による高校訪問(213校)</li> <li>◆ガイダンスIN鹿児島(実施日:7/28、参加者:97名)</li> <li style="padding-left: 20px;">" IN広島(実施日:8/9、参加者:197名)</li> <li style="padding-left: 20px;">" IN長崎(実施日:8/27、参加者:101名)</li> <li style="padding-left: 20px;">" IN福岡(実施日:12/1、参加者:209名、1/25、参加者:128名)</li> </ul> <p>※広島と長崎は、九州大学、福岡大学との合同ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆業者主催ガイダンスへの参加(回数:23回、参加者:747名)</li> </ul> <p>&lt;満足度向上企画&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆進路指導担当者懇談会(実施日:7/3、参加者:165校・233名)</li> <li>◆夏季オープンキャンパス(実施日:7/13~7/14、参加者:4,050名)</li> <li>◆サマースクール(実施日:8/20、参加者:24校・357名)</li> <li>◆秋季オープンキャンパス(実施日:9/23(北方)、11/9~10(ひびきの)、参加者:1,176名)</li> <li>◆大学訪問(訪問校:67校・3,319名)</li> </ul> <p>○引き続き、入学辞退率が比較的高い福岡都市圏対策として、12月(大学入試センター試験前)及び1月(一般選抜出願期間前)に、福岡市内にてガイダンスを実施した。</p> <p>また、ひびきのキャンパスでは、通常の広報活動に加え、理系学部を志望する女子生徒の獲得に特化した取り組みを実施するなど、過去の実績等を踏まえ、より戦略的な入試広報に取り組んだ。</p> <p>このような取り組みの中、一般選抜入試では、文系学部で志願者数は伸びた(前年比5.2%)ものの、理系で志願者数が減った(前年比▲31%)影響から、結果として実質倍率は2.6倍であった。</p> <p>&lt;一般選抜入試実績&gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <thead> <tr> <th>募集人員(a)</th> <th>志願者(b)</th> <th>受験者(c)</th> <th>合格者(d)</th> <th>入学者(e)</th> <th>実質倍率(c/d)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年度</td> <td>882人</td> <td>4,645人</td> <td>3,230人</td> <td>1,241人</td> <td>961人</td> <td>2.6倍</td> </tr> <tr> <td>平成25年度</td> <td>882人</td> <td>5,037人</td> <td>3,453人</td> <td>1,261人</td> <td>953人</td> <td>2.74倍</td> </tr> <tr> <td>平成24年度</td> <td>882人</td> <td>5,331人</td> <td>3,656人</td> <td>1,197人</td> <td>908人</td> <td>3.1倍</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;平成26年度学部別一般選抜入試実績&gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <thead> <tr> <th>募集人員(a)</th> <th>志願者(b)</th> <th>受験者(c)</th> <th>合格者(d)</th> <th>入学者(e)</th> <th>実質倍率(c/d)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外国語学部</td> <td>192人</td> <td>878人</td> <td>639人</td> <td>288人</td> <td>186人</td> <td>2.4倍</td> </tr> <tr> <td>経済学部</td> <td>144人</td> <td>709人</td> <td>529人</td> <td>194人</td> <td>148人</td> <td>2.7倍</td> </tr> <tr> <td>文学部</td> <td>130人</td> <td>609人</td> <td>401人</td> <td>181人</td> <td>138人</td> <td>2.2倍</td> </tr> <tr> <td>法学部</td> <td>165人</td> <td>782人</td> <td>495人</td> <td>288人</td> <td>196人</td> <td>1.9倍</td> </tr> <tr> <td>地域創生学群</td> <td>35人</td> <td>422人</td> <td>394人</td> <td>81人</td> <td>59人</td> <td>6.5倍</td> </tr> <tr> <td>国際環境工学部</td> <td>216人</td> <td>1,245人</td> <td>769人</td> <td>269人</td> <td>235人</td> <td>2.9倍</td> </tr> </tbody> </table>	募集人員(a)	志願者(b)	受験者(c)	合格者(d)	入学者(e)	実質倍率(c/d)	平成26年度	882人	4,645人	3,230人	1,241人	961人	2.6倍	平成25年度	882人	5,037人	3,453人	1,261人	953人	2.74倍	平成24年度	882人	5,331人	3,656人	1,197人	908人	3.1倍	募集人員(a)	志願者(b)	受験者(c)	合格者(d)	入学者(e)	実質倍率(c/d)	外国語学部	192人	878人	639人	288人	186人	2.4倍	経済学部	144人	709人	529人	194人	148人	2.7倍	文学部	130人	609人	401人	181人	138人	2.2倍	法学部	165人	782人	495人	288人	196人	1.9倍	地域創生学群	35人	422人	394人	81人	59人	6.5倍	国際環境工学部	216人	1,245人	769人	269人	235人	2.9倍				
募集人員(a)	志願者(b)	受験者(c)	合格者(d)	入学者(e)	実質倍率(c/d)																																																																												
平成26年度	882人	4,645人	3,230人	1,241人	961人	2.6倍																																																																											
平成25年度	882人	5,037人	3,453人	1,261人	953人	2.74倍																																																																											
平成24年度	882人	5,331人	3,656人	1,197人	908人	3.1倍																																																																											
募集人員(a)	志願者(b)	受験者(c)	合格者(d)	入学者(e)	実質倍率(c/d)																																																																												
外国語学部	192人	878人	639人	288人	186人	2.4倍																																																																											
経済学部	144人	709人	529人	194人	148人	2.7倍																																																																											
文学部	130人	609人	401人	181人	138人	2.2倍																																																																											
法学部	165人	782人	495人	288人	196人	1.9倍																																																																											
地域創生学群	35人	422人	394人	81人	59人	6.5倍																																																																											
国際環境工学部	216人	1,245人	769人	269人	235人	2.9倍																																																																											